

think transplant

vol.51

臓器提供ご家族の手記

臓器移植に関するご質問・お問い合わせ先

JOT 公 社 国 道 法 人 **日本臓器移植ネットワーク**
いのち、つなぐ。

☎ 0120-78-1069 (平日 9:00~17:30)

<https://www.jotnw.or.jp>

臓器移植 検索



想いを込めて見送った宝が、
同じ空の下で暮らすどなたかの
宝に置き換わって続いていく。



2024.11

私には12歳年の離れた妹がいました。せっかちな私とは正反対で、妹はマイペースでおとなしく、内向的ですが絵を描くのが上手で、心根が優しく友達にも恵まれていました。

そんな妹が倒れたのは本当に突然のことでした。「家で倒れて運ばれたけどもう危ない。会わせたい人と呼んだ方がいいって言われて…」と涙交じりの親からの電話。地元の病院では処置ができず、私が住んでいる市の大学病院に搬送され、そのままあれよあれよという間に緊急手術が始まりました。手術は終わりましたが、その後の医師からの説明は、回復のためにできることはもうないこと、自分で呼吸をしていないこと、目を覚ます可能性はゼロに近いということ、説明を聴いている今もいつ何が起きてもおかしくない状態であるということ…。

病院側からは面会時間などは気にせずいつでも会いに来ていいという配慮があり、毎日病院に通いました。妹が好きだったマカロンやクッキー、手術の傷を隠すためのかわいいヘアバンド、いい香りのするハンドクリーム。

喜んでもらえそうなものをたくさん持っていきました。(一回りも年が離れていると、一緒の家で過ごした時間も短く、姉妹という感覚も薄かった私に、最期に姉らしいことをさせてくれる時間を与えてくれたなと今は思います。)

そんな状態が続いて5日くらい経った頃、「臓器提供の意思を示していたものがあつたか確認してほしい」と看護師さんから依頼がありました。ちょっと前まで子どもでしたし、何も書いていないだろうと思いながらも保険証を確認したところ、なんと「臓器を提供する」という意思に○をしてサインをしていたのです。そこからは本当に瞬く間に時間が過ぎていきました。移植コーディネーターの説明を聴き、家族間でも誤解がないようにたくさん話し合い、臓器提供することを承諾しました。

すでに緊急手術の傷もありながらたくさんの管に繋がれて、つらい中も頑張っている妹。妹だったら「もうこれ以上痛い思いをしたくないから、臓器を提供する手術はしたくない」というのか、それとも「もうこれ以上管に繋がれたまま苦しい思いをするのが嫌だから臓器提供して早く家に帰りたい」と



いうのか。この二択がふと私の頭に浮かび、家族に問いかけると、みんな一致で「早く帰りたいって言うね」と。これが承諾の決め手となりました。

2回目の脳死判定が終わって死亡宣告を受け、家族みんなに囲まれながら妹は旅立って行きました。その後、妹は臓器提供のための最後の手術に臨み、無事に心臓・肝臓・腎臓が必要としている4名の方の元へ届けられました。術前には摘出手術を執刀する医師からの手厚い説明があり、臓器が運び出される際にも御礼の言葉をかけていただき、術後は担当してくださった多くの医療従事者の方々に送り出され、妹は私たちの元へ帰ってきました。

この度の経験と決断の中で、臓器提供したいという意思があってもできない場合があること、臓器提供に至るまでにはいくつものハードルを乗り越えなければならないということ、全てのご縁の巡り合わせで初めて実現するものであることを移植コーディネーターから聴き、臓器提供というのは、なんともドラマチックで尊い医療行為なのだと、この身に深く刻まれました。

私は妹の生まれた日から旅立ちの日までを見てきました。新しい命が誕生することの喜び、成長していく中で感じる無条件の愛おしさ、そして別れの

空しさ。人の一生を見つめられるなんてそうそうない経験だと思います。

妹が私たち家族の宝であったことと同様に、妹の臓器を受け取った方は、そのご家族の宝であることでしょう。妹の意思と、私たち家族の想いを込めて見送った宝が、同じ空の下で暮らすどなたかの宝に置き換わって続いていく。こんなに尊くて優しい気持ちを妹は私の心に残していつてくれました。

倒れてから旅立ちまで2週間。信じられないくらい目まぐるしく過ぎ去った、短くて長く、重くて深い、一生忘れない2週間。

妹が身をもって教えてくれた経験や想いを伝えることで、これから同じような選択をしなければならないご家族や、臓器提供に対する世間の認識が、少しでもいい方向に変わっていくような、誰かの何かの些細なきっかけになれば願っています。

妹の臓器を受け取ってくださった患者さんと、わが妹に敬意を込めて。



臓器移植にまつわるお仕事

今回の職業

臓器移植コーディネーター（ドナーコーディネーター）

臓器移植コーディネーターの仕事は、臓器を提供する人（ドナー）と移植を必要としている人（レシピエント）をつなぐ“橋渡し役”です。その中でも「ドナーコーディネーター」である私の役割は、亡くなった後に臓器提供を検討されているご家族のサポートです。病院から臓器提供に関する説明を希望されているご家族がいる旨の連絡を受けると、直ちにその病院を訪問し、ご家族と対面します。ご家族がどのような気持ちで説明を希望しているのかを伺い、臓器提供がどのようなもので、承諾された後に行われる医療行為や、どのようなお別れになるのかをお伝えします。他にも、どのタイミングで面会が可能なのか、いつ退院できるのか、手術の傷がどうなるのかなど、ご家族が気にされていることや不安に思われていることを丁寧に説明します。その上で、臓器提供の承諾をされた場合に、摘出された臓器をスムーズに移植を希望する方に届けるための調整や事務手続き、臓器提供後のご家族のケアを行います。

私は前職、看護師として病院で働いていました。病院でも移植に携わってきましたが、自分の親族が生体腎移植をしたことも臓器移植コーディネーターになった大きなきっかけです。自分事となって、改めてその難しさや必要性を痛感するとともに、移植をめぐる葛藤するご家族を支えたいという思いを抱くようになりました。

ご家族のありようはさまざまで、感情を表される方々もいれば、ぐっと堪えて多くを語らないご家族もいます。だからこそ、ご家族の心情理解に心を砕き、常に寄り添う存在でありたいと思います。

もっと詳しく知りたい方は▶▶



今回お話を伺った方
(公社)日本臓器移植
ネットワーク
S.Uさん

臓器提供の意思表示の方法

臓器を提供する。移植を受ける。私たちはどちらの立場にもなる可能性があるから、一人ひとりが家族と話し、意思を表示することが大切です。

意思表示の方法

臓器提供の意思は、以下の5つで表示できます。



インターネットで意思を登録すると、IDの入ったカードが発行され、いつでも登録情報の変更や削除ができます。
<https://www.2jotnw.or.jp>



※健康保険証は、2024年12月2日で廃止されます。

意思表示欄の例（臓器提供意思表示カード）

〈1、2、3、いずれかの番号を○で囲んでください〉

1. 私は、**脳死後及び心臓が停止した死後のいずれでも**、移植のために臓器を提供します。

2. 私は、**心臓が停止した死後に限り**、移植のために臓器を提供します。

3. 私は、臓器を提供しません。

〈1〉又は〈2〉を選んだ方で、提供したくない臓器があれば、×をつけてください。
【心臓・肺・肝臓・腎臓・膵臓・小腸・嚕球】

STEP.1

STEP.2

STEP.3

STEP.4

（特記欄）

署名年月日： 年 月 日

本人署名（自筆）：

家族署名（自筆）：



STEP.1 意思の選択

自分の意思に合う番号にひとつだけ○をしてください。どの意思も等しく尊重されます。

STEP.2 提供したくない臓器の選択

1.か2.に○をした方で、提供したくない臓器があれば、その臓器に×をつけてください。

脳死後に提供できる臓器

心臓・肺・肝臓・腎臓・膵臓・小腸・嚕球

心臓が停止した死後に提供できる臓器

腎臓・膵臓・嚕球

STEP.3 特記欄への記載について

皮膚、心臓弁、血管、骨などの組織も提供してもいい方は、その旨を記入できます。
親族優先提供の意思を表示したい方は、ホームページなどで詳細を確認の上、「親族優先」と記入してください。

STEP.4 署名など

本人の署名及び署名年月日を自筆で記入してください。可能であれば、この意思表示欄に記入していることを知っている家族が、そのことの確認のために署名してください。